

厚真を選択し、厚真で暮らす幸せを実感し続けられるまちづくり

厚真町長 宮坂尚希朗

新年明けましておめでとうございます。

令和7年の輝かしい新春を迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつ申し上げます。

旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本町に未曾有の災害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震から6年の歳月が過ぎました。発災からこれまでの間、全国・全道の関係機関から深いご理解と多大なご尽力を賜りました。また、全国から寄せられた温かいご支援に改めて心から感謝申し上げます。災害復旧は昨年3月をもちまして国直轄の砂防事業、かんがい排水事業が竣工し、北海道施工による治山事業も計画通り進められています。森林再生は、心のケアと同様に長い年月を要するものと考えておりますが、次世代への記憶のバトンという面からは、町内外の各関係機関や団体、子どもたちの参加による植樹会の開催などさまざまな舞台となっています。

昨今、「食料」や「観光」といった強みを有する北海道の生産空間としての懐の広さは、全国から憧れられる生活空間として再認識されています。近年では脱炭素化の分野でも、北海道の高い潜在力が注目され、次世代型半導体製造拠点やデータセンターの進出、再生可能エネルギーを中心としたGX産業への期待など道央ベルトエリアを中心に新しい風が吹いていると実感しています。本町では、現在、復旧と並行して復興への取り組みを進めており、昨秋には、北海道電力とカーボンニュートラル施策に資するまちづくりに関する包括連携協定を締結しました。各方面のご協力を得ながら建設物価の高騰から再検討を余儀なくされている庁舎周辺整備に関しても、機能やコンセプトの維持を前提に建設費・維持費などトータルコストの削減を図りながら、早期着手を目指しています。

ほかにも防災・減災対策、エネルギー地産地消や省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学の総合力を結集し、着実に実装しながら復興の重点施策として取り組んでいます。また、人口減少の時代であるが故に、新たな国土形成軸である二地域居住政策を活用して厚真町が持つリソースの最大化を図るとともに、地域産業の担い手・後継者の確保、新たな人材の育成に取り組みながら、分野別IoT技術の導入やSociety5.0、DXなどの社会革新を積極的に取り込み、次世代の未来創造につなげてまいります。

一方で、全国各地で豪雨や暴風雨等の自然の猛威による災害が繰り返されています。昨年元日に発生した能登半島地震と関連する事故は、その被害の甚大さとともに予測不能な運命に大きな衝撃を覚えました。近年ではさらに巨大な地震災害をもたらすと予想されている日本海溝・千島海溝周辺や南海トラフでの海溝型地震災害に対する警鐘が鳴らされています。頻発化・激甚化が進む自然災害ですが、本町でも、昨年8月末に記録的な豪雨に見舞われ、収穫間近なほ場が大きな被害を受けました。関係者の皆さまには改めてお見舞い申し上げますとともに、今後も防災・減災対策に全力で取り組んでまいります。

いつの時代にあってもフロンティアと呼ばれる北海道は、困難の中にありました。反面、自然の恵みや自然資本の可能性は無限大でもあります。今私たちは、新たな試みとして、民間の手による町民のための地域福祉サービスのプラットフォームを再構築しています。町民ファーストでありながら、包摂性や寛容性を養い、教養を高め支え合いながら、厚真町民としての誇りと尊厳を大切にする地域社会を育ててまいります。

暮らしの新しい指標、「ウェルビーイング」とは、幸福で、肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態を指します。「厚真を選択し、厚真で暮らす幸せを実感し続けられるまちづくり」を目標とし、社会構造の変革や技術革新を取り込みながら、新しい価値を創造し、これからも「強靱でしなやかなまち」、「挑戦を諦めないまち」として輝いていられるよう、未来創生に向けた歩みを着実に進めてまいりますので、町民の皆さまの積極的な社会参画と深いご理解ご協力を心よりお願い申し上げます。

結びに、これまでの努力や準備が実を結び始める時期とされる「乙巳年^{きのとみどし}」が、明るく希望の持てる年となりますとともに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。